

第6回公立大学法人福井県立大学評価委員会 概要

平成21年1月19日(月)

15:00~16:20

県庁7階 特別会議室

(出席者)

秋山委員、打本委員、加藤委員、前川委員、吉村委員

【議事】

- (1)平成20年度の県立大学の取組みについて
- (2)平成20年度業務実績評価の進め方について
- (3)その他

議事に先立ち、委員長を選任を行い、吉村委員を委員長に選出した。
平成20年度の県立大学の取組みについて県立大学からの説明および平成20年度業務実績評価の進め方について事務局からの説明があり、それぞれ質疑応答が行われた。

委員会終了後、新任の秋山委員、打本委員および加藤委員は県立大学へ移動し、理事長、学長等との懇談および学内視察を実施した。

【主な発言要旨】

- (委員) 評価委員会委員の役割としては、年度計画の実施状況に対する評価とその他のアドバイスと考えてよいか？
- (事務局) 6月末には県立大学側から業務実績報告書が提出されるので、それに対する評価と、併せて、いろいろなご意見をいただきたい。
- (委員) 時代の流れが速く中期計画策定時には想定されなかった新しい課題にも対応する必要がある。臨機応変に動ける仕組みが必要。
- (県立大) 新たな重点項目の追加、他の国公私立大学の事例参照など適宜対応していきたい。
- (事務局) 確かに6年間は長すぎるので、県としても中期計画に固執することなく柔軟な対応が必要との認識である。
- (委員) 教養教育の見直しの内容はどうか？
- (県立大) 従来から1年次から専門科目も受講できるくさび形のカリキュラムを組んでいるが、最近の学生は大学での勉学の手法に慣れていないため、導入ゼミとして強化したいと考えている。学生と役員の見意見交換の場でも意見として出ている。
- (委員) 経団連との会議の場でも新入社員の一般教養が弱いということが強く言われている。
- (委員) 企業での選考の際は、どういうことを勉強してきたかということより、教養や社会人としてのマナーを重視する。先端的な知識

は会社に入ってからでも修得可能。人間性、協調性、コミュニケーション能力が大事。

(県立大) 専門教育は4年間では無理。社員教育は会社の守備範囲だと思う。民間企業の本音はコミュニケーション能力に優れた、その会社のカラーに染まる人材ではないか。

(委員) 教養教育と専門教育の関係についても、日本の高等教育が戦後駄目になってきた反省を踏まえて福井らしさを出した独自性のある取組みが必要ではないか。戦前には、旧制高校や津田英学塾やいくつかの珠玉のような教養教育を行うカレッジが存在したが、今はなくなってしまった。今の大学卒業者からは国際的な場でリーダーとなるにふさわしい教養が不足している。

学生に知的刺激を与えるような講義や明治以来の福井の偉人に関する講義をキャンパスワイド的に実施し、どの学部の学生でも聞けるような取組みが聴講生をして福井県の伝統や文化に誇りを持たしめるものとなり、有効な取組みの一つかもしれない。

(委員) 英語能力だけではなく、日本を、福井を理解していることが大切。

(委員) 国際機関で日本人の幹部職員がどんどん減っている。

(委員) 学生はインターンシップに行っていると思うが、1～2週間では何もできないのではないか。私の会社では、海外の学生を毎年4～5名受け入れ、約1年間、企画・デザイン・設計等の業務に従事してもらっている。県内学生が海外インターンシップに行ける制度はあるのか？また、国内インターンシップももう少し長期間にしてはどうか？

(県立大) 本県は経営者協会が県内企業と学生とのマッチングを行っており、他県と比べても積極的にやっている方ではないか。実施期間の長期化については、企業側からの難色が強い。

(委員) 19年度の評価書で指摘した数値目標の設定の件であるが、県立大学では年度計画の実施計画値として、何々を何回としているが、指摘したことは、こうしたものを意図したものではない。実施計画値のような形ですべてを表すのはいかがなものか。

(県立大) 他大学との比較や本学の過去の実績を踏まえた点検評価は、志願倍率等の代表的な指標のほうで行う。また、こうした指標を使って数値目標を掲げそれに向かって大学運営をするということについては大学内でも異論があり、そうではなく大学の状況やそれぞれの水準を点検、評価するための基準であるという考え方でいる。

(事務局) 26の重点項目に係る取組みについては、他大学の事例も調査、分析して各委員にお示ししたい。

(委員) 21年度の年度計画はいつ頃決まるのか？

(県立大) 3月の理事会で最終決定の予定。策定作業は現在とりかかった

ところ。

(委員長) 年度計画が決まるまでにまだ時間がある。本日、席上配布されている19年度の評価書を各委員において見ていただき、思いつかれたことは適宜事務局に連絡してほしい。事務局はその意見を県立大へフィードバックすること。

以 上